



# 陽気(Y)ぐらしへ よう(Y)こそ

## 穏やかな日和に第2回ワイワイ・フェス開催

# 北海道 教区報

第564号

発行所

天理教北海道教務支庁

札幌市中央区南8条西11丁目

電話011(561)-1148

FAX011(561)-1190

E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp

印刷

三浦印刷株式会社



青い空が広がった10月20日(日)、教務支庁の全館を使い、育成部主催で4会合同プロジェクト「ワイワイフェス2019」が開催され、食べ物で、ステージで、体験ブースでと、多くの人を楽しませ、日赤の献血の上にも協力できた。(400ccを60名) 親神様に感謝して、大人から子供まで楽しめる行事を作ろうとの思いで始まって二回目の今



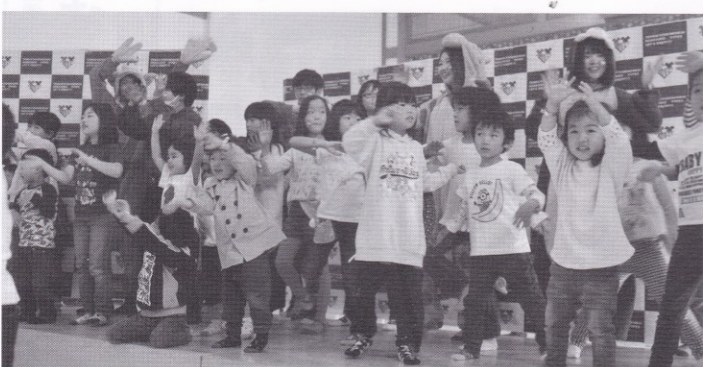
食べられない人も。体験ブースでは、マッサージュに恋愛クリニック、コサージュ作りも好評で、縁日やエアバルーン、Eスポーツでも子供の歓声が途切れなかった。

ステージでは音楽祭の舞台に、各地より鼓笛隊が集結し、オープニングから各隊の特色が出て、親御さんやジイジ、バアバを巻き込んで、盛り上がりを見



年。「Y、Yとはワイワイするばかりか、「陽気ぐらしへ」「ようこそ」を掲げています」と、実行委員長の岡田荃貴氏が説明していたが、全道27支部がそれぞれの持ち味を出してのブースが並んだ。

道南3支部のイカめし、釧根はザンタレ、札幌4支部が焼き鳥、道北3支部で焼きそばなど、満腹で配布されたお弁当が



せていた。また、釧根クレインキッズのパプリカダンスや定番の合唱団も聴衆の大きな拍手を浴びていた。

最後におイモやお菓子、ジュース、お米、アマゾンギフト券3万円分などの当たる熱気あふれる抽選会があつて、会場が笑顔いっぱいファイナルと続いた。広すぎてなかなか会えない道内のお道の友達との出合いや、道行く人やご近所の方が来場されて、4会が力を合わせ、助け合いの心を育むという目的を達成する一日となった。

(参加者400名)

# 全道の教友が勇み心を一つに合わせて 親の思いを世界の人々へ！

令和の元号となって初めての「全教一斉にをいげデー」が全道各地で実施された。期間中、概ね晴天のお日和だったが、風雨に見舞われる支部もあり、その中でも勇み心で路傍講演・神名流し・戸別訪問・リーフレット配布等が各地で展開された。(以下は、各支部の報告書より紹介します)



北見駅前

札幌白豊支部では、土日で年祭や御用が多く、月末で参加できない会長さんも多くみられる中、「教会長路傍講演の日」に、路傍講演用フリップを用意したところ、女性の会長さんやようほくの方が講演してくれ、涙な

がらにされた方もあり、とても感動的な活動となった。

昨年甚大な地震被害を受けた日高支部では、期間を通して天候に恵まれ、29日には、鶴川・厚真地区で仮設住宅などへ支援物資を届けながら戸別訪問も行われた。

道内でも有数の広範囲にわたる十勝支部では、今年最終日の30日に帯広駅前にて路傍講演を実施。教会長11名を含む19名の参加者で行われた。駅前とは言っても、交通の便が必ずしも良いわけではなく、一堂に会することが難しい点も、北海道ならではの

問題点である。

## 秋空に御親の教え 各地で響く

北見支部では3日間にわたり、リーフレット配布・戸別訪問と併せ、北見駅前での路傍講演を実施。のべ18名が北の空に神名を響かせた。

天塩支部では、名寄地区の名寄駅前・名寄西條デパートの2か所で路傍講演を実施。また和寒地区では、29日「陽気ぐらしの天理教」のステッカーを貼つ

た街宣車で町内を巡回。教会長3名を含む5名が「私達は天理教天塩支部です。私達の家庭が、そして社会が明るく健康で楽しく過ごすことが出来ますよ、天理教では陽気ぐらしとい



天塩・和寒地区

う事を教えられております。お互い助け合って、明るく陽気な

## 秋空に御親の教え 各地で響く

社会を作りましょう」とメッセージを呼びかけた。

天龍支部は、無教会や教会長不在の市町村をこの機会ににをいげけをと、28日は増毛、留萌方面に。次いで29日は日曜日でもあり、御婦人に子供も多く参加してくれて、深川市周辺で。教区布教部長の視察もある中、路傍講演、リーフレット配布など

旭川市では、旭川支部と上川支部が合流して、活動し、時ならぬ陽気ぐらしの旗の波に、多くの市民が目を見張っていた。この日旭川が18名、上川が12名と、道行く旅行者、市民も注目する人数となり、駅前からの神名流しと路傍講演、リーフレット配布にも力が入った。なかに



旭川、買物公園で

を賑やかに、明るく、楽しく取り組ませて頂き、また好天の中、勤められたことは、参加者全員の喜びとなりました。28日の参加者が32名、29日が35名、30日はそれぞれの教会単位の活動で、教会長の参加は10名でした。

旭川市のメインストリート、買物公園では、旭川支部と上川支部が合流して、活動し、時ならぬ陽気ぐらしの旗の波に、多くの市民が目を見張っていた。この日旭川が18名、上川が12名と、道行く旅行者、市民も注目する人数となり、駅前からの神名流しと路傍講演、リーフレット配布にも力が入った。なかに



琴似駅前・札幌北西支部

は、ベンチに腰掛けて話に聞き入る方がいたり、弁士もマイクを固く握って熱弁をふるっていた。

網走支部では美幌の教会に10時に集合し、若手の青年グループとその他のチームに分かれ、神名流しをして路傍講演をさせて頂き、教会長が6名、その他15名の参加でした。また、函館支部は豪雨に見舞われ、実動不可能なので、参加者26名で練り合いを行ったと。

教会長の高齢化による参加者の減少、路傍講演への苦情や未理解の所もあったが、総じて、のぼりやフリップでの公告効果と、沢山の方が講演を聞いてくれたとの報告は、来年ののをいげけにつながらと思われた。



**明るく楽しく優しく  
「ままた力アップ」**

ままたの集いを開催させて頂きました。台風で大荒れの予報が出る中、たくさん参加者に恵まれ、楽しい1日をすごしました。

すわりづとめの後、教区主任先生のごあいさつを拝聴し、常任委員の奥様のお話もきかせて頂きました。

はじめは緊張感も感じられましたが、次第にあちこちで笑い声があふれ、チーム戦でのゲームでは、必死にクリアしていくすがたにこちらも嬉しくなりました。

子育てをしていく上で、親子にかける言葉の勉強をさせて頂きましたが、やはりお道の女性らしいあたたかな言葉、思いやりあふれる言葉を使う方が多く見受けられました。

午後からは、恒例のスイッチを楽しみながら、常任委員の奥様と共に、自分をふりかえるトークやすごらくトークをして、有意義な時間を過ごしました。

**「喜び」をテーマに  
「わかぎの集い」開催**

少年会教区団では、10月5日、6日の両日、わかぎ10名、学生会6名、育成会員5名の計21名で「わかぎの集い」が開催された。今年のテーマは「喜び」。

過去・現在・未来に分けて「喜び」について考えた。1日目は過去と現在。昨年の少ひのDVDと今年の少ひのDVDを鑑賞。それぞれで喜び探しをし

た結果、昨年比べ今年のDVDからの方が、喜びを見つけることの容易さ、また喜びに気づくスピードが速いことが分かった。2日目は未来について。学生会員が中心となり、将来の夢に向かう喜び探しをした。2日間通して、喜びとはどこかに落ちていく物でもなければ、突然降りてくるものでもないという事。自分自身の中から湧き出る感動が「喜び」となることを再確認した。参加者からは、「一



人で味わう喜びよりも、多くの人と味わう喜びの方が素晴らしかった。ことに気づけた」という感想があった。

(団長 久米田忠彦)

●天塩支部 (佐藤仁志支部長) では7月20日、道北分教会を会場に支部総会を開催した。

9時45分、支部長の手に合わせて三社礼拝。志村総務部長の開会の辞、おつとめまなびがつとめられた。座りづとめは、教会長並びに支部役員。よろづ八首く六下り目は名寄地区よろづ、後半下りは土別地区よろづが担当し、陽気につとめさせて頂いた。

おつとめ後、佐藤支部長により教区長のメッセージ代読。挨拶。ますます勇んでつとめさせて頂こうと話した。

その後、支部活動報告はプリントを事前配布し、発表とした。閉会の辞を岡田副支部長が発声し、支部長の手に合わせて、三社参拝し、閉会。

続いてひのきしん実動として、会場周辺のゴミ拾いが行われた。

お楽しみ会の直会では、今年も婦人会が担当。前日から準備して当日総出で、おにぎりとお餅かけうどんが振る舞われた。また、外では青年会・女子青年の



焼き鳥・ジンギスカン。加えて、志村総務部長のリサイクルショップも開催。今年も多くの品物が用意され、子ども達や同好の士が集まった。

最後のお楽しみ抽選会では、景品に加え、御供えのお下がりが小分けして景品に。岡田荃貴君の名司会もあり、大いに盛り上がった。(参加者71名)

**教区学生会**

11月16日(土)16時〜17日(日)15時

**おつとめ総会**

会場・北海道教務支庁

11月16日 学生担当委員会〜下半期支部担当者会議

「私は一生懸命信仰をさせて頂いてきましたが間違っていました。私の信仰に対して息子は反対はしません。一家のために頑張ってくれと云ってしました。」

しかしこれでは息子は、神様の手を握っている私の足を握っているようなものですね。やはり息子の本当のたすかりは直接神様の手を握らせることだと思いました。私は仮の親で生命の親は親神様ですものね。」と、以前にあるご婦人が私に話してくれた。成程よい悟りをされたと感じた。

人間創造の親神様が、創造の時の約束の年限が到来したので、人間の前に現れられて人間としての本来の生き方について説いて下された句が立教の元一日である。親神様の元一日の思いは、親神様は我々人間の真実の親であって分け隔てなく私達はすべて可愛い子供である事。そして生きる目的は陽気ぐらしである事。その陽気ぐらしは各自の心の使い方ですべて決まる事。そしてその心の使い方を教えられたのである。

これをわかりやすく言えば、神

様が本来の生き方が出来るようにたすけてやりたいので、「私の手を握りなさい」と私達の目の前の手の届くところまで手をさし出して下さった句ということである。

さし出された神様の手は、た

教理随想 三十三

親神の手

木岡 昭

さつて陽気ぐらしの世界へとひき上げて下さるのだ。しかし大切な事は、神様の手は必ず人間の側から手を握らなければ握り返して頂けない事である。それは人間創造の時に唯一各自の心の自由を頂いたのだから、あくまでも人間側の心次第であり、真実誠の心でなければ握ることは出来ないのである。

さらに大切な事は、神様の手を握り、握り返されたのに手が離れる人がある。それはすべて自分の身の重さに握った手が堪えかねて各自が勝手に離してしまふのである。身の重さとは「欲に切りない泥水や」と仰せの如く、自分勝手な神様の思召しにそぐわない欲の事である。

さし出された神の手は、人間の親が陽気ぐらしをさせてやりたい親心として、すべての人に直接握ってほしいのである。人の足を握って信仰しているのは本当のものとは云えない。私達は身を軽くして神様の手をしっかりと握らせて頂きたいものである。親の心になえば陽気ぐらし世界へ引き上げて下さる。十月はこの道の教えが始まった月である。

基礎講座北海道会場

(藤野充普事務局長)では去る10月6日、深川市の雨龍大教会



を会場に基礎講座を開催し、18名の受講があった。

天龍支部(松下敏孝支部長)では、全教一斉にをいがけデーに800枚の案内を各家庭に配布、はじめて受講された方が5名、一般の方が1名、若い世代の方が多数受講され、実りある講座となりました。

※次回11月10日教務支庁会場  
で年内最後の開催となります。  
秋季おぢばがえり帰参後の「丹誠にぜひ」活用ください。

北海道教務支庁日誌抄

(9月19日・10月18日)

- |     |        |             |
|-----|--------|-------------|
| 9月  | 19日    | 布教の家寮祭      |
|     | 22~23日 | しらゆき会例会     |
|     | 23日    | ままつぶの集い     |
|     | 23日    | 青年会例会       |
|     | 25日    | 教区長会議       |
|     | 26日    | 本部分次祭還拜式    |
|     | 28~30日 | 全教一斉にをいがけデー |
| 10月 | 1日     | たすけ推進会議     |
|     | 2日     | 支部例会        |
|     | 2日     | 支部長会議       |
|     | 4日     | 任命願書発送      |
|     | 5~6日   | わかぎの集い      |
|     | 6日     | 基礎講座深川会場    |
|     |        | 講師 高橋太志     |
|     |        | 受講者18名      |
|     |        | 累計 8692名    |
| 18日 |        | 教区報編集会議     |